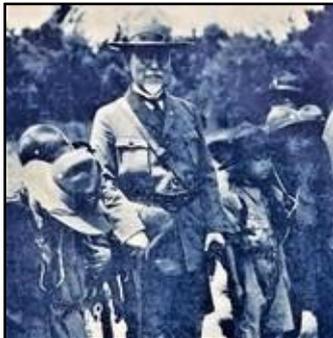


健児を愛し 愛された 涙の総長 ~ボーイスカウト初代総長就任100年~

本年度第2回目の企画展が、7月15日から10月16日までの予定でスタートしました。ボーイスカウト初代総長に就任して100年。総長就任の経緯と、健児を愛し健児に愛された「涙の総長」、後藤新平の人物像を紹介します。

【少年団日本ジャンボリー臨時総裁就任】

1922年(大正11)4月、英国皇太子殿下の御来朝を歓迎し、これを記念するため少年団日本ジャンボリーを開催することとなり、その臨時総裁に就任したのが、当時東京市長であった後藤新平です。ジャンボリーが大成功裡に終わり、ぜひ臨時ではなく正式に推戴したいと懇請され、新平はついに東京連合少年団の団長を承諾し、それから間もなく少年団日本連盟の総裁(後総長)も、承諾しました。



【少年団とともに】

【新平の考える少年団】

新平は、少年団の考え方を「少年團と自治精神」というパンフレットにまとめています。「『人のお世話にならぬよう。人のお世話をするよう。そして報いを求めぬよう。』これは、自治三訣として、私が少年時代から心掛けて来たモットーであります。少年団の行くべき途も、このほかにはありません。(中略)学校と家庭と社会。この3つの力で少年は教化されるものであります。」と述べています。その柱とするところは、まさに現代の社会教育であり青少年教育そのものです。



令和四年度 第二回企画展
健児を愛し 愛された 涙の総長
〜ボーイスカウト初代総長百年〜

【併催】シリーズ後藤新平人脈考
「三島 通陽」

【期間】令和4年7月15日(金)~10月16日(日)
奥州市立後藤新平記念館



【後藤総長古稀祝賀会】

【健児を愛し 愛された 涙の総長】(エピソード集)

「子どもは先生」、「僕らの好きな総長」をテーマに様々なエピソードを取り上げ、いかに新平が子ども達を愛していたか、そして子ども達から愛されていたかを紹介しています。

①金剛精舎、②市長辞職慰労金10万円の寄付、③総長の制服と徽章、④健児は神経質であってはならぬ、⑤3人の写真、⑥子どもは先生、⑦後藤総長古稀祝賀会、⑧少年団作品・絵画、⑨キャベツの葉にライスカレー、

⑩訪露送別会(もち米3粒お赤飯)の10のお話です。その中から一つを紹介します。

《後藤総長古稀祝賀会》1926年(大正15)6月6日、新平の古稀を記念するため、少年団日本連盟の主催で「彌榮(いやさか)」の行事が行われました。全国の団員から歌詞を募集して作られた「総長彌榮の歌」を少年団員1,500人が勢揃いして斉唱すると、後藤新平は涙を流して聞いたと言います。そして歌詞のとおり、新平は「健児のためと云うならば、お国のはてのはてまでも、喜び勇んで」行くのでした。

後藤総長彌榮の歌

元氣ヲ以テ 新日高藤治作曲

1 ボクラノ スキナ ソウヂウ ハ
2 ぼくらの すきな そうぢう は
3 ボクラノ スキナ ソウヂウ ハ

シーロイ オヒゲニ ハナメガネ
けんじの なめとー いふならは
ゴーキノ オトシニ ナラレテモ

ダンアグ ツケテー じウモツ チ
おくのの はてのー はてまでも
マスマス 強ウブア エライカネ

イツモー ゲンキダ ニーゴニコ
よろこび いさんで 強カネマ
ソウヂウ イヤサカ イーヤサカ



【霊柩帰還】

【総長倒れる】

昭和4年4月13日、新平は旅立ちました。その翌日数百名のスカウトの三指の敬礼のお見送りを受け、京都駅を出発しました。東京駅に到着すると、新平の棺が健児たちの手によって列車から運び出されました。4月16日、告別式。全国少年団代表600名、麻布青年団300名、巣鴨中学生徒700名も参列。4月28日、葬儀に参列できなかった少年団員が、日比谷公園において大追悼会を執行しました。参列した加盟団員は1,752名。多くの子ども達が、最後まで新平との別れを惜しまました。

【少年団による追悼会】



参列した加盟団員は1,752名。多くの子ども達が、最後まで新平との別れを惜しまました。